

ろくおん通信 No. 147

発行日 2007年4月15日
 発行： 盲人情報文化センター録音製作係
 〒542-0071 大阪市中央区道頓堀1丁目東3番23号道頓堀千島ビル
 電話 06-6211-0910 (録音製作)

聴いてわかる図書を作るために (第13回)

どういうふうに本を聞きたいかを考えて「注」の処理を考えましょう

久保 洋子

今回は「注」のある本について考えてみます。「注」の形は、本の最後にまとめてあるもの、各章の(節)の最後にあるもの、ページ見開きの左はしにあるもの、頭注、脚注など様々です。内容も語句の説明や補足であったり参考文献や出典であったりと色々です。

これらの注を読む方法としては、その都度本文中に読み込む、本文中に注番号を読んで、注は各章節などの項目の最後にまとめて読むなど、が考えられます。

本来処理については、一冊の本全巻統一するのが基本ですが、注については必ずしも統一できないこともあります。語句の説明を各章の終わりで読んでも、行ったり戻ったりも大変で簡単には利用できません。出典のように本文を理解するには必要ないものが本文中に次々出てくると、本文がわかりにくくなることもあります。

注の処理は、本の種類(読み物、学習参考書、料理の本などハウツー物、医学書)、注の内容によっ

て利用しやすい方法を考えて下さい。ふだん読書をする時に、音声訳者としてではなく一読者として、どこで注を見るかを意識してみることも役立つかもしれません。

但し、一冊の本でも読み方は人によって様々です。注を一つ一つ丹念に読む人もいるでしょうし、出典などはほとんど気にしないで、本文だけ読む人もいます。そのどの人にも出来るだけ便利にように考えて作られているのが原本です。

録音図書も本来はどんな利用法にも対応できるように作られるべきですが、なかなか難しいのが現実です。デジタインググループを利用して、テープよりはずっと簡単にとぶことが出来るようになりましたが、それでも行ったり戻ったりしないではじめから順に読めばいいというのが一番利用しやすいことに変わりはありません。

利用者の立場に立って、自分が録音図書の読者になったらどういうふうに本を聞きたいかをいつも考えて、少しでも利用し易い本を作っていきたいものです。

5月

録音製作予定表

7日(月)『音声訳初心者講習会』 毎週月曜日
1時～3時

8日(火)『マトリョーシカ』定例勉強会 10時～12時

9日(水)『橋本勝利のフォロアップ講習会』
1時～3時

11日(金)『橋本勝利のフォロアップ講習会』
1時～3時

12日(土)

『録音ボランティアの研修・交流会』
於・玉水記念館10時～16時

盲人情報文化センターの録音製作に携わる音声訳者・校正者・編集者・作業ボランティアが一同に会して、研修と交流を図ります。

当日は、録音製作に携わるボランティア・職員は朝から、玉水記念館へ集合しますので8階9階とも休みになります。

16日(水)『Mの会』(音声訳のマニュアル検討会)
1時～3時

16日(水)『自宅水曜チーム』定例勉強会 1時半～3時

16日(水)『わかば』定例勉強会 10時～12時

25日(木)『二十四の瞳』定例勉強会 10時～12時

近畿情報協

『専門図書音声訳チーム』定例勉強会

16日(水)『理数チーム』午前10時半～12時

18日(金)『東洋医学チーム』3時～5時

26日(土)『パソコンチーム』1時半～4時

25日(金)『英語チーム』10時半～3時

自宅録音チーム

『二十四の瞳』

今回から、盲人情報文化センターで活動・協力いただいています「チーム」や「グループ」を紹介していきます。今回は盲人情報文化センターで8年前に自宅録音の音声訳講習会を修了された最初のグループの「二十四の瞳」です。チームメンバーがデジター編集もできますので、これまで共同製作図書を積極的に取り組んできました。この教訓を生かし、他の自宅録音チームも共同製作を進めていく計画です。（清水）

平成10年に発足した自宅録音チームです。最初24人でスタートしたのでグループ名を『二十四の瞳』と命名しました。発足以来、毎月第4木曜日に勉強会をしています。勉強会では各自録音をしている上で疑問点を話し合う他、毎回、教材を用意して勉強もしています。各自の蔵書録音の他、全員で共同製作の音訳をしています。今まで共同製作を完了したのは『現代用語辞典』『喜納昌吉1948-2000 流るるままに』『四国花遍路』（瀬戸内寂聴）『健康おかず』『最新冠婚葬祭実例大事典』や『未来を開く歴史教科書』（日・中共同製作）などです。現在、メ



ンバーが半減しましたが、全員が利用者にとって分かり易い録音図書作りに努力しています。（松本記）

録音製作ボランティア研修（勉強会）&交流会のお知らせ

前号に引き続き、録音製作ボランティアを対象にした研修（勉強会）&交流会のお知らせです。まだまだすべり込み可能ですのでお申込みくださいませ。

日時：5月12日（土） 10時～16時

参加費：100円

場所：玉水記念館

大阪市西区江戸堀1丁目10-31 TEL. 06-6441-0169

最寄り駅 地下鉄四つ橋線「肥後橋」駅（8番出口上がり、すぐ）

日程：午前 オリエンテーション

研修・・・日本ライトハウスからのお知らせ（新しい取り組みの紹介）

勉強会・・・テーマ：「聞いて分かる図書」とは？

午後 交流会・・・クイズ大会 など

申込み締め切り まもなく締め切り

TEL 06-6211-0910（録音製作係直通）

FAXでも受け付けます。06-6211-1590（録音製作係まで）

申込書

名前 _____

参加： 1日 午前のみ 午後のみ

お弁当（お茶付き）500円 有 無

2006年度は移転で休館もありましたがボランティアの皆さんのご奮闘によりました、自館製作分は23タイトル・1354巻（2004年度184タイトル・1024巻、2005年度 201タイトル・1126巻）と'05年度より10%の増、テープ巻数では約20%増となりました。

移転・休館などがあつたにもかかわらず製作量を伸ばすことが出来たのは自宅録音チームの奮闘も大きく貢献しています。今後とも自宅録音チームのご奮闘をお願いするものです。

利用者へ発表する新刊は他館製作分や複本を用意

しますで、'06年度はカセット版を約2000冊分、デジ版を1908冊分を製作しました。

また、国立国会図書館からの委託図書製作、約1000時間分、府立の委託製作44時間分などがありますが、

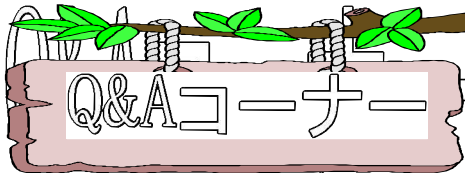
この分は自館蔵書製作の統計には含めていませんので、実質の自館製作は350タイトルを越えています。

2007年度はさらに10%の製作量を増やす目標で取り組んで参りますので、皆さんのご協力をよろしくお願いいたします。

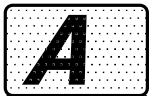
みなさまのご奮闘で、製作タイトルが増えました！

'05年度 201タイトル '06年度 223タイトル

今年度は 250タイトルを目標



カセットテープのデータをデジタルに変換して残しておきたいのですが、なにか良い方法はありませんか



最近、「カセットで録音した音源データをデジタルに変換して残しておきたいが、何かいい方法はないか」と言った質問が寄せられます。グループでこれまで製作してきたカセットマスターをデジタルにして残しておきたいとの要望は、他にもあると思いますので、こちらでお答えしている内容を紹介します。

「PRS Pro」を使って、とにかくカセットA面、B面単位でデータを取り込んでいきます。取り込んだデータは若干手を加えるだけで簡易版の「デジ版図書」として利用することも可能になります。

変換に要する機材は

カセットデッキ

パソコン（ノートパソコン又はデスクトップ）

オーディオインターフェイス（UA-4FX）

価格18000円程度

カセットデッキからオーディオインターフェ

ースとを繋ぐピンコード（カセットデッキに付属しているピンコード）

PRS Pro（編集ソフト）

を用意します。

デジ版編集ソフト（PRS Pro）を立ち上げ、録音設定で倍速を選択すれば、カセットデッキの再生スピードを倍速にして取り込むこともできます。A面B

面単位でセクションを変え取り込んでいきます。

また、録音設定で、セクションポーズ時間を最大5秒に設定し、ファイル分割「あり」に設定して、カセットデッキ側を、「DIRECTION」（おしり返し再生）に設定しておけば、A面、B面をセクション分割（ファイルも分割）しながら取り込むことができます。音声フォーマットは「MP3 64Kbps Mono」を選べば約20時間程度まで1枚のCDRに納めることができます。また、DVDで保存するなら、音質のよい「PCM 22.05kHz Mono」を選択してもいいでしょう。



インプットレバー



ピンコードはカセット

デッキの裏面のOUTPUTとオーディオインターフェイスのINPUT側に差し込みます。ボリュームはインプットのレバーで調整します。音声はダイヤルの下側にあるヘッドホーンで聴きます。パソコンのスピーカーからは音は出なくなります。

2007年度の「録音図書製作講習会」 (全20回) がスタート



4月19日(木)より2007年度の「録音図書製作講習会」がスタートしました。定員10人に対して12人が受講されます。今回から、講習終了後も、再度修了試験を実施します。試験の内容は録音操作、処理技術などです。合格された方がスタジオ録音に入ります。スタジオ録音が難しい方(来館できない方)については自宅録音チームに所属していただきます。



「わかば」チーム 活動開始

2006年度の「録音図書製作講習会」が修了し4月より、蔵書録音の活動に入りました。グループの名称は「わかば」と決まりました。メンバーは15名です。この内、13名がスタジオ録音(月曜日～土曜の各曜日チームに所属)2名が「自宅録音水曜チーム」に所属します。「わかば」チームとし

ては定例の勉強会を第3水曜日午前中に行いながら、半年後にはグループとしての定例勉強会は無くなり、各チームに所属していきます。この間のお世話役として、水野順子さんと山中真理子さんに担当して頂きます。

「自宅再編水曜チーム」がスタート



3つのチームが合同し「自宅水曜チーム」が4月18日(水)にスタートしました。メンバーは13名です。チームの世話役として金井典子さんと山見順子さんに担当していただきます。今年最初の共同製作作品として『大人の品格』に取り組むことになりました。

自宅録音のスピードアップが期待される

「ウェブスタジオ・なにわ」

自宅チームは今後、「ウェブスタジオ・なにわ」(インターネットを利用した録音・校正・編集作業)が立ち上がりますので、これを利用した音訳活動になっていきます。まずはパソコンでインターネットを利用している方から先行して行く予定です。データの郵送作業などが不要無くなりますので、データがなかなか届かないといった事もなくなり、録音製作のスピードアップが期待されます。

2007年度 『プライベート図書製作講習会』が7月よりスタートします。

実施時期： 2007年7月25日(水)～11月7日(水)
毎週月曜日

会場： 10:00～12:00
盲人情報文化センター

講習内容： 1. 読み方の基本
2. 記号、漢字、図、表などの音声変換処理
3. PRSソフトを使用した録音技術など
4. 調査・録音の順序など

資格： 音声訳に必要な基礎的な訓練を終了した方
自宅で録音ができる方
講習会終了後、盲人情報文化センターに月に1～2回程度来館が出来る方

費用： 2000円(資料代)

定員： 15人

申込方法： 申込用紙に記入の上、郵送(Faxも可)またはご持参ください。メールでも受け付けます。

道頓堀千鳥ビル
社会福祉法人日本ライトハウス
盲人情報文化センター録音製作係
Tel 06 6211 0910 Fax 06 6211 4590
E mail rec@iccb.jp

〆切日： 2007年7月7日(土)
試験日： 2007年7月11日(水)
盲人情報文化センター 6階 第1会議室
10時～12時

試験内容： アナウンステスト
漢字の読み
音声変換処理センス
面接
筆記用具持参のこと 鉛筆、消しゴム

発表： 2007年7月21日(土)までに連絡
講習開始： 2007年7月25日(水)
10:00～12:00

尚、試験日当日、来館出来ない方は、担当者までお申し出ください。